

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	英語Ⅳ
科目基礎情報					
科目番号	0057		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 4	
開設学科	電子制御工学科		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	Japan's Skyline: Technological Highlights of Major Companies Atsushi Mukuhira et al. (Kinseido)				
担当教員	河島 美代子				
到達目標					
前期末試験：Unit1～7 関係詞、接続詞、複合形容詞、不定詞、時制、比較、分詞の文法を理解し、正確に運用できる。 学年末試験：Unit 8～14 指標語、分詞構文、定義文、無生物主語、形式主語、句読点、仮定法の文法を理解し、正確に運用できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目1	350語程度の科学技術に関する長文を読み、正しく内容を理解することができる。		350語程度の科学技術に関する長文を読み、おおむね内容を理解することができる。		350語程度の科学技術に関する長文を読み、正しく内容を理解することができない。
評価項目2	理工系英語で注目すべき語彙・構文・文法を理解し、正確に運用することができる。		理工系英語で注目すべき語彙・構文・文法を理解し、おおむね運用することができる。		理工系英語で注目すべき語彙・構文・文法を理解し、正確に運用することができない。
評価項目3	グラフ、表、仕様書、工程図、特許明細書図面の英語を理解し、設問に正しく解答することができる。		グラフ、表、仕様書、工程図、特許明細書図面の英語を理解し、設問におおむね解答することができる。		グラフ、表、仕様書、工程図、特許明細書図面の英語を理解し、設問に正しく解答することができない。
学科の到達目標項目との関係					
準学士課程（本科1～5年）学習教育目標（3） JABEE基準 (a) JABEE基準 (f) システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 A-1 システム創成工学教育プログラム学習・教育目標 C-2					
教育方法等					
概要	日本の企業や組織が世界へ発信している「ニュース・リリース（news release）」をベースとした英文を読んだり、聞いたりして、理工系の分野で使用される語彙や構文の知識を深めながら、英語で書かれた記事や論文の理論的展開をつかめるように、英語の文章に特有な構造や指標語（discourse markers）について学習する。将来、学生が企業活動や研究活動の現場で、英語を読んだり書いたりする機会を想定し、最先端の科学・技術に関する情報に触れながら、科学英語に親しみ、この分野における基礎的な英語運用能力を身につけることを目的とする。				
授業の進め方・方法	これまで学習してきた語彙や英文法の知識の更なる定着を目指し、総合問題に取り組む言語活動を行う。また、TOEIC学習に役立つように、ビジネス現場で用いられる日常表現を簡単な英語で書く学習活動も行う。				
注意点	事前学習として、Innovative VocabularyとExpressive Expansionに取り組み、本文(Reading)を読んでComprehension Checkup をやっておく。本文の語彙や連語も確認しておく。事後展開学習として、本文を繰り返し読んだり、本文を見ないでCDを聴き、本文が理解できるか確認するなど、科学英語とその表現に慣れ、内容理解を深める。Dialogue Dynamics のQ&Aの会話は、実際の学会発表などの模擬表現として参考になるので、ぜひ声を出して読む練習をして欲しい。 欠席による小テストの未受験や課題未提出については、公欠またはそれに準ずる欠席に限り対応する。				
学修単位の履修上の注意					
この授業では、到達目標を達成するために、授業以外でも英語学習への積極的な取り組みを必要とします。授業で学習した語句や慣用表現を、英作文などを通じて内在化を図り、更なる自己表現の枠組みを手に入れていくようにしてください。					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	Unit 1 (1) Design First!	Text読解、リスニングに取り組み、語彙を理解し、それらを用いて表現することができる	
		2週	Unit 1 (2) Design First!	実践問題（figure）、関係詞を理解し、それらを用いて表現することができる	
		3週	Unit 2 (1) Meeting Athletes' Needs	Text読解、リスニングに取り組み、語彙を理解し、それらを用いて表現することができる	
		4週	Unit 2 (2) Meeting Athletes' Needs	実践問題（figure）、接続詞を理解し、それらを用いて表現することができる	
		5週	Unit 3 (1) Seven Years in the Making	Text読解、リスニングに取り組み、語彙を理解し、それらを用いて表現することができる	
		6週	Unit 3 (2) Seven Years in the Making	実践問題（process chart）、複合形容詞を理解し、それらを用いて表現することができる	
		7週	Unit 4 (1) MEISter to the Rescue	Text読解、リスニングに取り組み、語彙を理解し、それらを用いて表現することができる	
		8週	Unit 4 (2) MEISter to the Rescue	実践問題（specification）、不定詞を理解し、それらを用いて表現することができる	
	2ndQ	9週	Unit 5 (1) Space Station Science	Text読解、リスニングに取り組み、語彙を理解し、それらを用いて表現することができる	
		10週	Unit 5 (2) Space Station Science	実践問題（figure）、時制を理解し、それらを用いて表現することができる	
		11週	Unit 6 (1) Driving Control & Safety	Text読解、リスニングに取り組み、語彙を理解し、それらを用いて表現することができる	
		12週	Unit 6 (2) Driving Control & Safety	実践問題（table）、比較を理解し、それらを用いて表現することができる	
		13週	Unit 7 (1) Renewing Plastics	Text読解、リスニングに取り組み、語彙を理解し、それらを用いて表現することができる	
		14週	Unit 7 (2) Renewing Plastics	実践問題（table）、分詞を理解し、それらを用いて表現することができる	

後期		15週	前期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		16週	試験返却・解答・復習	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。
	3rdQ	1週	Unit 8 (1) Directing the Blind	Text読解、リスニングに取り組み、語彙を理解し、それらを用いて表現することができる
		2週	Unit 8 (2) Directing the Blind	指標語 (discourse markers) を理解し、それらを用いて表現することができる
		3週	Unit 9 (1) Music and Architecture in Harmony	Text読解、リスニングに取り組み、語彙の説明を理解し、それらを用いて表現することができる
		4週	Unit 9 (2) Music and Architecture in Harmony	実践問題 (figure)、分詞構文を理解し、それらを用いて表現することができる
		5週	Unit 10 (1) Painless Injections	Text読解、リスニングに取り組み、語彙を理解し、それらを用いて表現することができる
		6週	Unit 10 (2) Painless Injections	英語文章の構造の説明①、義文を理解し、それらを用いて表現することができる
		7週	Unit 11 (1) Tsunami Defense	Text読解、リスニングに取り組み、語彙を理解し、それらを用いて表現することができる
		8週	Unit 11 (2) Tsunami Defense	実践問題 (specification)、無生物主語の説明を理解し、それらを用いて表現することができる
	4thQ	9週	Unit 12 (1) Improving Business Performance	Text読解、リスニングに取り組み、語彙を理解し、それらを用いて表現することができる
		10週	Unit 12 (2) Improving Business Performance	実践問題 (graph)、形式主語を理解し、それらを用いて表現することができる
		11週	Unit 13 (1) An Efficient Refrigerant	Text読解、リスニングに取り組み、語彙を理解し、それらを用いて表現することができる
		12週	Unit 13 (2) An Efficient Refrigerant	英語文章の構造の説明②、句読点を理解し、それらを用いて表現することができる
		13週	Unit 14 (1) Atmospheric Observation	Text読解、リスニングに取り組み、語彙を理解し、それらを用いて表現することができる
		14週	Unit 14 (2) Atmospheric Observation	実践問題 (figure)、仮定法を理解し、それらを用いて表現することができる
		15週	学年末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		16週	試験返却・解答・復習	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前2,前4,前6,前10,前12,前14,後2,後4,後6,後10,後12,後14
			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	3	前2,前4,前6,前10,前12,前14,後2,後4,後6,後10,後12,後14
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	3	前1,前3,前5,前9,前11,前13,後1,後5,後9,後11,後13
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	3	前1,前3,前5,前9,前11,前13,後1,後3,後5,後9,後11,後13
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前1,前3,前5,前9,前11,前13,後1,後3,後5,後9,後11,後13
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	3	前1,前9,後1,後9
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	3	前1,前3,前5,前9,前11,前13,後1,後3,後5,後9,後11,後13
			平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	3	前1,前3,前5,前9,前11,前13,後1,後3,後5,後9,後11,後13

				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	3	前14,後14
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	3	前6,後6
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	3	前6,後6
			英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	前1,前3,前5,前9,前11,前13,後1,後3,後5,後9,後11,後13
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	3	前2,前4,前6,前10,前12,前14,後2,後4,後6,後10,後12,後14
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	3	前6,後6
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	前6,後6
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	後8
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	後13
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	3	後13
				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	

評価割合				
	筆記試験	課題提出物の完成度	小テスト	合計
総合評価割合	60	20	20	100
基礎的能力	60	20	20	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0